九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

南野 森（編）『憲法学の世界』目次

南野, 森

https://hdl.handle.net/2324/27436

出版情報：pp.iii-xiii, 2013-07-30. 日本評論社
バージョン：
権利関係：

憲法学の世界
目 次

第1部 憲法総論・統治機構論

第1章 立憲主義 …… 南野 森 2
第2章 法の支配 …… 中林暁生 15
第3章 民主主義 …… 小泉良幸 25
第4章 国民主権の原理 …… 小島慎司 38
第5章 権力分立論 …… 赤坂幸一 49
第6章 議院内閣制——法と政治の間で …… 林 知更 60
第7章 天皇と戦争／歴史と記憶 …… 西村裕一 72
第8章 憲法の最高法規性——基本的人権の保障方法 …… 青井未帆 86
第9章 憲法の変容
——憲法改正・抵抗権・国家緊急権 …… 木村草太 103

第2部 人権論

第10章 人権の概念——憲法・憲法学と「人権」 …… 南野 森 120
第11章 人権の制約・限界——「公共の福祉」を中心に …… 曽我部真裕 135
第12章 人権保障の実質化 …… 中林暁生 149
第13章 私人間効力
——「人権」を尊重する社会をいかに築くのか …… 青井未帆 162
第14章 法の下の平等——差別の問題と厳格審査の理論 …… 木村草太 177
第15章 思想の自由・良心の自由 …… 林 知更 191
第16章 政教分離と信教の自由 …… 山本龍彦 205
第17章 表現の自由 …… 宍戸常寿 220
第18章 「経済的自由」 …… 小島慎司 232
第19章 「社会改革（social revolution）」への翹望
——生存権の憲法的保障をめぐって …… 尾形 健 245

細目次

はしがき　i
目次　iii
凡例　xiv

第1部　憲法総論・統治機構論

第1章　立憲主義 …… 南野　森　2

1　立憲主義という語　2
2　立憲主義の歴史　7
3　立憲主義の未来　11

第2章　法の支配 …… 中林暁生　15

はじめに　15
1　「法の支配」の理解の仕方――その1　16
(1)　日本国憲法の指導理念としての「法の支配」　16
(2)　「法の支配」における「法」とは何か　16
(3)　日本国憲法は「法の支配」の原理に立脚しているのか　17
2　「法の支配」の理解の仕方――その2　18
3　「法の支配」と「力」　20
おわりに　24

第3章　民主主義 …… 小泉良幸　25

1　寓話――直接民主制は民主主義の「理想」か？　25
(1)　民主主義の多様性　25
(2)　間接民主制と直接民主制　25
(3)　直接民主制の難点　26

2 「代表」の観念——有権者と議会の間での「民主主義」 27
(1) 代表観念の変遷 27
(2) 国民意思統合の方法という観点から 29
(3) 民意の「実在」性への懐疑 30
(4) 代表論と主権論の関係 31
3 政治プログラムの多数派による独占？ 32
(1) 国民内閣制 32
(2) ケルゼンの民主制論 33
(3) 討議による合意形成 33
4 司法審査と民主主義 34
(1) プロセス的司法審査理論 34
(2) 公民的共和主義 35
(3) 個人の自律と立憲民主主義 36

第4章 国民主権の原理 ……小島慎司 38

1 国民主権の原理と責任政治 40
(1) 国民主権と天皇制 40
(2) 国民主権論の変容 42
(3) 責任政治の意味 43
2 責任を問う関係の多様化 45
(1) 誰に対する責任か 45
(2) 誰の責任か 47

第5章 権力分立論 ……赤坂幸一 49

1 マジックワードの戒め 49
2 立憲主義と権力分立 50
3 混合政体の理念 52
4 権力均衡と階層性 53
(1) 均衡の観念 53
(2) 階層性の観念 55
5 思考モデルの再構築 56

第6章 議院内閣制——法と政治の間で ……林 知更 60

1 憲法と議院内閣制 60

(1) 議院内閣制の諸形態 60

(2) 実践による生成と展開 62

(3) 理念と現実の間 63

2 変革の中の議院内閣制 64

(1) 改革の理念 64

(2) 政権選択と合意形成 66

(3) 首相・内閣・大臣 68

3 憲法学の役割 70

第7章 天皇と戦争／歴史と記憶 ……西村裕一 72

1 「英霊の聲」 72

(1) 前奏 72

(2) 主題 72

(3) 憲法 73

2 天皇 73

(1) 象徴 73

(2) 國體 75

(3) 空気 76

3 戦争放棄 77

(1) 自由 77

(2) 戦争 78

(3) 安保 79

4 小括 80

5 憲法史 81

(1) 忘却 81

(2) 遊戯 83

(3) 虚構 84

第8章 憲法の最高法規性
——基本的人権の保障方法 ……青井未帆 86

はじめに 86
1 最高法規性——実質面 87
(1) 基本的人権の保障と紛争の解決 87
(2) 立法手続におけるスタビライザー 88
(i) 内閣法制局 88
(ii) 法制審議会 90
(3) 違憲審査 91
(i) 不具合の発生 91
(ii) 違憲審査権の行使 92
① 法令の審査 92
② 刑事事件と憲法上の権利 94
2 最高法規性——形式面 99
(1) 法としての存立要件 99
(2) 団体とその権限 99
(3) 過度広汎性・明確性の理論 100
おわりに 101

第9章 憲法の変容
——憲法改正・抵抗権・国家緊急権 ……木村草太 103

はじめに 103
1 ルールの妥当性 103
(1) 形式的意味の憲法と実質的意味の憲法 103
(2) ルールの概念 104
(3) ルールの妥当性 105
(4) ルールが妥当するための条件 105
(5) 形式によるルールの妥当性 106
(6) 自然法論と法実証主義 107
2 憲法自身が規定する改正の限界 108
(1) 手続上の限界 108
(2) 内容上の限界 109
3 改正限界を超える憲法の変動 110

(1) 革命 110
(2) 憲法変遷 110
(3) 憲法の変動をどう評価すべきか？ 111
(4) 自然法論と法実証主義 112
(5) 分析軸としての自然法論と法実証主義 112
4 憲法の変動を促す方法 113
(1) 憲法変遷の承認 113
(2) 抵抗権 114
(3) 国家緊急権 114
5 憲法の変動を防止する方法 115
(1) 憲法変遷否定説 115
(2) 憲法の変動に対する抵抗権 116
(3) 憲法を守るための国家緊急権 117
おわりに 117

第2部 人権論

第10章 人権の概念
——憲法・憲法学と「人権」 ……南野 森 120

1 日本社会と人権 120
2 「人権」という語 123
3 人権という思想 126
4 憲法という思想 130
5 「人権」と「憲法上の権利」 133

第11章 人権の制約・限界
——「公共の福祉」を中心に ……曽我部真裕 135

1 「人権相互の矛盾・衝突」の調整原理としての「公共の福祉」？ 135
2 「公共の福祉」論の史的展開 138
(1) 3つの段階の区別 138
(2) 一元的外在的制約説 vs 外在・内在二元的制約説 138

(3) 宮沢説（一元的内在的制約説）の登場 139
(4) 違憲審査基準論の登場と「公共の福祉」論の役割の地盤沈下 141
3 「公共の福祉」の内容 143
(1) 内在的制約・外在的制約 143
(2) 「公共の福祉」の内容の新たな類型化の試み 144
4 「公共の福祉」あるいは「公共の福祉」論の役割 145
(1) 人権制約の限界の大枠設定としての「公共の福祉」論 145
(2) 「公共の福祉」論の役割を極小化する立場 145
(3) 国家権力の正当性の限界としての「公共の福祉」 146
5 「公共の福祉」以外の人権制約根拠？ 146
おわりに 147

第12章 人権保障の実質化 ……中林暁生 149

はじめに 149
1 権利の類型 149
(1) 国家と国民との関係 149
(2) 生存権的基本権 151
(3) 権利規定の裁判規範性 152
2 二重の基準論 153
(1) 二重の基準論 153
(2) 人権保障の方法 154
(3) 司法裁判所による違憲審査制 155
(4) 司法消極主義と司法積極主義 156
(5) 二重の基準論の論拠 159
おわりに 159

第13章 私人間効力
——「人権」を尊重する社会をいかに築くのか
……青井未帆 162

はじめに 162
1 「人権侵害」と裁判所 163
(1) 「人権侵害」163

(2) 近代から現代へ 163
(3) 裁判所 164
2 これまでの学説・判例 167
(1) 学説 167
(2) 判例 168
3 現在の議論へ 169
(1) 概観 169
(2) 高橋和之説 170
(3) 小山剛説 171
(4) 考察 171
4 検討——私人間「効力」とは何か 172
(1) 「人権」を適用するということ 172
(2) 高橋説について 173
おわりに 174

第14章 法の下の平等
——差別の問題と厳格審査の理論 ……木村草太 177
はじめに 177
(1) 近代国家と国民の平等 177
(2) 具体的な問題を処理する基準としての「法の下の平等」 178
1 アメリカ連邦最高裁と equal protection 条項 178
(1) 違憲審査制の確立 178
(2) 南北戦争と平等保護条項の成立 178
(3) 平等条項の射程拡大 179
(4) 合理的根拠のない区別の禁止へ 180
(5) 人種による区別と立法目的適合性の要請 180
(6) 人種差別に対する特殊法理の成立 182
(i) 「疑わしい区別」に関する立証責任の転換 182
(ii) 差別的意図の禁止の法理 182
(7) 基本的権利に関する区別の厳格審査の理論 183
2 ドイツ連邦憲法裁判所と法の前の平等 183
(1) ドイツ国民としての統一 183
(2) 立法者非拘束説 184
(3) 立法者拘束説と恣意の禁止定式 185
(4) 新定式 186

3 日本の最高裁判所と憲法14条1項 187
(1) 日本の判例の歴史 187
(i) 平等条項の射程拡大 187
(ii) 目的自体の合理性と区別と目的との合理的関連性 187
(2) 日本の判例の評価 188
(i) 日本の判例の特徴 188
(ii) 憲法上の権利に関する区別の厳格審査？ 189
(iii) 差別の問題——日本法の盲点 189

第15章 思想の自由・良心の自由 ……林 知更 191

1 はじめに 191
2 整理——「思想・良心の自由」論の現在 192
(1) 学説——内面領域の保障 192
(2) 判例①——通説の受容 193
(3) 判例②——内面領域から外面領域へ 194
(4) 小括 195
3 分析——「思想の自由」と「良心の自由」 195
(1) 外面的行為の保護？ 195
(2) 内心と信条 197
(3) 2つの自由——「思想の自由」と「良心の自由」 198
(4) 小括 201
4 検討——19条論の行方 202
(1) 通説・判例の問題点 202
(2) 法学的論証のあり方 203

第16章 政教分離と信教の自由 ……山本龍彦 205

はじめに 205
1 アメリカ 206
(1) 歴史 206
(2) 判例 209

2 日本 211
(1) 歴史 211
(2) 判例 213
(i) 空知太判決の位置 213
(ii) 分析 214
(iii) 展望 216
おわりに 218

第17章 表現の自由 ……宍戸常寿 220

はじめに 220
1 事件の概要 221
(1) 地位協定と本件資料 221
(2) 本件禁止措置 221
(3) 本件禁止措置後の展開 222
2 判決の内容 222
(1) 国家賠償法上の違法性 222
(2) 国会図書館長の職務上の法的義務 223
(3) 本件禁止措置の違法性 224
3 検討 225
(1) 結論は妥当か 225
(2) 情報公開制度 225
(3) 図書館としての国会図書館 227
(4) 国会の機能 229
むすびに代えて 231

第18章 「経済的自由」 ……小島慎司 232

1 高辻正己の憲法29条論と国有農地売払い事件 233
(1) 1962年と1963年の論文 233
(2) 国有農地売払い事件 236
(3) 1978年判決の高辻意見 239
2 現有財産と「経済的自由」 241
(1) 財産権を有する能力としての自由 241

(2) 財産権を行使する自由 242

第19章 「社会改革（social revolution）」への翹望
——生存権の憲法的保障をめぐって ……尾形 健 245

1 黎明期の「社会権論」——明治憲法下における議論 247

(1) 「社会権」としての「養老期金」——穂積陳重 247

(2) 「最後の一人の生存権」——牧野英一 249

(3) 「社会権」論の萌芽 250

2 生存権保障の憲法化への途
——現行憲法制定過程における「挿話」 251

(1) 「人間必需の生活を享受するの権利」——佐々木惣一 251

(2) 社会改革具体化への aspiration
——マッカーサー草案起草時の GHQ における議論 252

(3) 「生活権」の具体的保障
——帝国議会衆議院小委員会での議論 254

3 生存権の憲法的保障
——憲法25条という理念とその実現にむけて 255

(1) 「公共的理念」としての生存権保障 256

(2) 憲法25条実現にむけた「協働（partnership）」 256

むすびにかえて 258

事項索引 259

人名索引 263

判例索引 266

条文索引 268

執筆者一覧 270